

体験学習を重視した学習指導

—— 米づくり活動を通して ——

足利市立毛野南小学校

1. 研究主題設定の理由

今回の新学習指導要領（平成元年度）では、体験的学習が一層重視されている。体験的学習については、小学校学習指導要領の総則の中の「指導計画の作成等に当たって配慮すべき事項」に「各教科等の指導にあたっては、体験的な活動を重視するとともに、児童の興味や感心を生かし自主的・自発的な活動が促されるよう工夫すること」と示されている。

体験学習を重視することは、児童に学習意欲をもたせ、主体的な学習の仕方を身につけさせるとともに、学ぶことの楽しさや成就感を体得させる上で有効である。特に、理科においては、より積極的に自然に働きかけ、観察や実践などを一層重視する学習が可能となる。一方、社会科においても、観察や調査研究等を児童自らの手で行うことによって、生きた学習が可能になる。

本校の学校教育計画でも、体験重視の教育計画策定を打ち出しており、毛野地区の自然や文化に関する学習圏の拡大が急務であるとされている。今回の「米づくり体験学習」の構想も積極的に地域素材を学習に活用しようとする意欲から発案されたものである。

2. 研究の視点

体験学習を重視するというテーマを設定する際、次の3つの視点を考えた。

(1) 稲作体験学習に期待するもの

本校が位置する毛野地区は、従来から稲作が盛んであった。しかし、近年、市街化の波が押し寄せ、現在も区画整理中であり、専業農家はほとんど無い。したがって、本校の子ども達は学校の回りで水田は目にすることができるが、田植えや稲刈りの経験はほとんどなく、稲の成長にもそれ程興味を示さない。そこで今回、農業委員会の働きかけもあり、児童自らの手で田植えをし、稲を育ててみようということになった。研究が初歩の段階にあるので、まずは、水田に入り、手を土まみれにして苗を植え、鎌で刈り取る体験をさせることを主な目的とした。

(2) 異学年交流に期待するもの

本校は、「仲良し活動」と称する他学年との交流を積極的に行っているが、もう一步進めて2年生と5年生の二学年にしぼって学習活動を設定してみた。ようやく本校の教育活動に慣れてきた2年生と、次期リーダーになる5年生との交流を積極的に深め、親しみの持てる上・下級生の関係が生じるようにしたい。田植えや稲刈りのように、ある程度の技術を要する活動になると、5年生が2年生をリードするような場面が想定できる。

(3) 地域素材の教材化に期待するもの

稲作と学習指導の関連を考えてみると、2、5年生ともに、理科と社会科の学習内容に密接に関連していることが分かる。以下、今回の体験学習が、二教科のどの学習内容に教材として生かせるかを考えてみることにする。

(理科)

2年生の理科では、植物の成長を観察するという観点から、稲を育てる活動を通して、その成長の様子を調べることができる。しかも、お米になるまでの過程を社会科と関連させて学習することが可能である。また、生活科に移行する時期としての稲作体験学習は有意義である。

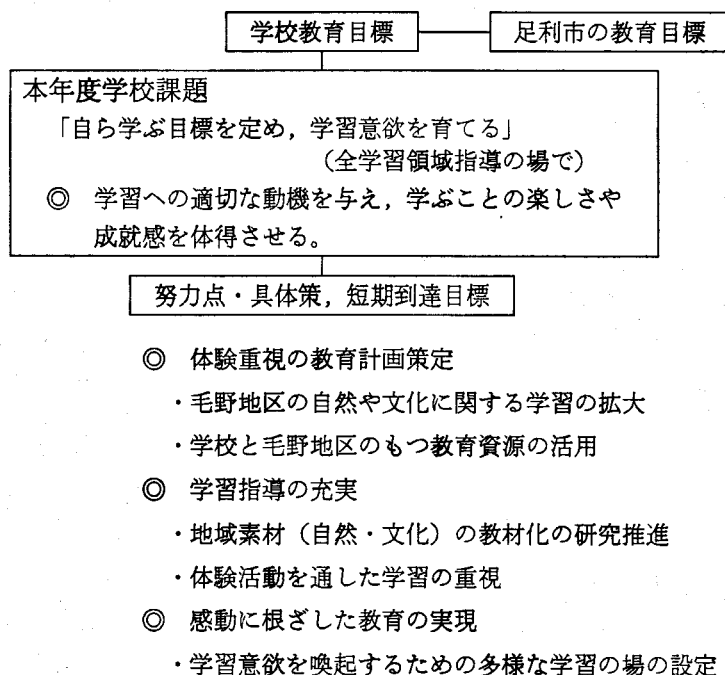
5年生では、植物の成長と環境を学習する際、植物の発芽・成長と日光、肥料との関係を扱う。稲の成長には、土の状態が大きく関係しており、稲という植物を通して、その成長条件を考えることもできる。

(社会科)

2年生の社会科では、田畑で働く人々という単元で、農家の人々の仕事という内容を扱う。ここでは、米作りの手順や仕事の学習に、今回の体験学習を生かすことができる。特に、体験をともなった学習として、より身近に農家の人々の仕事を理解することができる。

5年生では、米の生産に励む人々という単元で、日本の農業が抱えている問題について学習する。稲作体験を通して、より身近に米の生産をめぐる諸問題について生産者の立場から考えることが可能である。

3. 本校の学校課題とのかかわり



4. 実践の記録

(1) 田植え体験学習

アンケート調査によると、田植えを経験したことがない児童が、2年生で88.5パーセント、5年生で74.6パーセントと圧倒的に多い。稲刈りでも同じように、体験した児童はほとんどいない。5年生の社会科で「日本の農業」や2年生の社会科で「田や畑で働く人々」という学習をするが、やはり自分で経験した方がより身近な学習になると考えた。

そこで今回、農業委員の小野寺さんに協力を仰ぎ、実際に田に入り、田植えの体験をさせていただくことにした。

袋川水門に近い川崎町にある水田5アールをお借りして学習することになった。育苗やなわしろ作りは小野寺さんをお願いした。



(活動の結果と考察)

今回、初めての試みであったが、子ども達は予想以上に喜び、楽しみながら体験学習できた。特に、田の中の感触や、苗を植え育てる実感は、教室の中では経験できないものである。5年生が2年生に細かく教える場面が多く見られ、2年生にとって5年生を見直す良い機会になっていたようである。また、田植えの経験がある子や手先の器用な子が、率先して活動に取り組み、他の友達をうまくリードしていた。農家の人の配慮で、田植え機の実演を見ることができ、機械の便利さをつぶさに見学することができた。

はじめの田植え	毛野南小 五年 前田 千恵子
と足を入れた。	
はだしこ、ドロの田んぼに入、た、歩いてみ	
ると、足が重く感じた。田植えをする前にお	
じさんにやりかたをくわしく教えていただいた	
てから始めた。二本ぐらわずつ植えてい、た	
わたしは、むかしの人はこうやって田植えを	
していったんだなあと思ひながら、一生けん命	
に植えました。三斗止の中には五斗ずつぐら	
い植えていたり、植えてもすぐにはお水をし	
まうようにやる人がいました。むかしは、そ	
つと心をこめて、ていねいに植えた人じゃあ	
いかなと思ひました。わたしは、初めての経	
験で、やる前は二本ぐらいい印にあわせて植え	
水がはいいながら、とともかんたんな仕事だと思	
っていたけれど、やってみると印にあわせて	
たお水がいようにするだけでも、意外にむず	
かしい仕事になあと思ひました。	

(2) 稲刈り体験学習

「これ何ですか。」と、のこぎり鎌を見た子ども達からさっそく質問がでた。のこぎり鎌を持つことも、初めての体験である。

普通の鎌のように使い、なかなか刈れない子に、「こうして引くようにすると良く切れるよ。」と、ある子が説明していた。引きながら使うのこぎり鎌の切れ味に子ども達はびっくりしたようである。

稲の穂の付き方、わらの感触、株わかれの様子を知るには、やはり、直接体験が良い。



楽しかったいねかり	毛野南小 五年 田口 恵理子
私は、生まれて初めていねかりをやりました。田んぼに着いた時には、わくわくして、落ち着いていられますでした。	
私は、亀田さんといっしょにやり、二年生も三人ぐらいいました。	
初めてのうちは、一たば一たばが、ザクザクと切れるととてもおもしろかったのですが、そのうち、だんだんつかれてきてしまいました。	
た、音は、おじさんやおばさんも、こつやつていねをかっていたのだから、大変だったろうなめと思えました。	
私は、いねをかりながら、六月に植えたえのこまで育ったのは、おじさんたちのおかげなんだと思えました。小野寺さんには、本まにお世話になりました。	
私は、もう一度でいいから、又、田植えやいねかりをやってみたいです。	

(活動の結果と考察)

稲刈りも田植えと同様、ほとんどの子ども達が初めての経験であった。子ども達は、実際に稲に触れ、刈り取る活動を通して様々なことを学びとっていた。数本しか植えなかったのに、何十倍も株分かれして増えた稲に驚き、穂が成長して重く垂れ下がっているのを見て「教室に持ち帰りたい。」と提案してきた。刈りとった稲が「コシヒカリ」と聞くと「食べたいなあ…」と溜息を漏らしていた。



(4) 収穫祭

子ども達が収穫したコシヒカリを使って、さっそく5年生と2年生が収穫祭を開いた。

5年生は家庭科の調理実習としてご飯を炊き、2年生は5年生が炊いてくれたご飯でおむすびを作った。梅ぼしやその他の具をそれぞれ持ち寄って思い思いのおむすびを作り、収穫祭を楽しんだ。

収穫祭には、お世話になった小野寺さんをお呼びし、お礼のお手紙を渡した。



起る喜びを感じます。三年生と一緒に食べ たおむすびは、最高の味でした。六月の田植 えから十月の稲刈りまでの四カ月間、わくわ くれながらお米が出来るのをまろや、と今 ちいしく食べられました。どうだらけにな った田植祭、楽しかったです。最高の田植 祭、お米も全部一つ一つの思いが残りま した。お米を育ててくれた、小野寺さんのお じいさん、おばさんありがとうございました。 いろいろ感謝が込め、本当に楽しかったです。	楽しかった収穫祭 五年一組 小林 真由美 おいしそう 家庭科でおいおいおいおいおいおい の人と一緒におむすびを作り始めました。自 分達の手作りのお米を一生懸命に作りまし た。何日かかかかかかかかかかかかかかか して、こんなに立派なお米になりました。とても感謝 の気持ちでいっぱいです。汗水たらして世話を して下さったおじいさん、心の底からわく わく喜びを感じます。三年生と一緒に食べ たおむすびは、最高の味でした。六月の田植 えから十月の稲刈りまでの四カ月間、わくわ くれながらお米が出来るのをまろや、と今 ちいしく食べられました。どうだらけにな った田植祭、楽しかったです。最高の田植 祭、お米も全部一つ一つの思いが残りま した。お米を育ててくれた、小野寺さんのお じいさん、おばさんありがとうございました。 いろいろ感謝が込め、本当に楽しかったです。
--	--



(活動の結果と考察)

やはり、自分達で田植えをし、刈りとったお米の味は格別であったようだ。「もっと食べたい」との意見が続出した。

今回、5年生が実に良く活躍してくれ、お世話になった小野寺さんを交えて、とても有意義で楽しい収穫祭になった。

今回収穫したお米を使って、他学年も試食会が開けたことは、全校児童の家庭に本校の体験学習の姿勢を理解してもらい、きっかけとなったものと思われる。

話題の広場

毛野南小のよい子達が

体験農園で稲刈りを学ぶ

小野寺農業委員の指導で



毛野南小学校(木村健校長)の二年と五年生のよい子達が川崎町にある学校農園の田んぼで九日前十時から稲刈りを行って社会勉強に勤労の汗を流した。この田んぼは、市農業委員や県農業士で活躍している小野寺芳雄さん方の田んぼで学校体験農園設置事業として小野寺さんが開設者となり、市を通じた毛野南小に提供しているもので、田植から除草、稲刈り作業と小野寺さんがよい子を指導し、この日は兄弟はもってこいの一日だった。

五アールのコシヒカリ

植えて育てて収穫まで

小林滋子P広報部も取材

袋川水門付近
い川崎町南一丁
田にある、この
学校農園は五ア
ールで、六月二
十一日に二、五
年生のよい子達
がコシヒカリの



苗を小野寺さんの指導で植
えたもの(写真)。
生育状況の観察を経て立
派に実って稲刈り作業とな
ったこの日は長靴に運動着
姿のよい子が須藤教頭や山
崎、秋山、八長、山田の各
級担任の先導で農園入り、
農政事務所の大家所長、市
農林土木の佐藤主任、市総
協の関口開発課長等、農事
指導者もかけつけて、よい
子の農作業に拍手。



家の仕事や米作りの苦勞な
どの話を聞き、稲刈りの仕
方を教えてもらった後、ノ
コギリガマで黄金に実った
稲の刈取りがスタート。P
T A広報部の小林滋子副部
長もカメラで応援取材。

研究同人

- 5年担任 秋山年克
- 山崎明美
- 2年担任 八長健次
- 山田敏子

初体験の子が多く最初は
恐る恐るだったが、慣れる
に従って手つきもさまにな
り「もっとやりたい」「大
きくなったら農業をやりたい」という声も聞かれ、生
産の喜びを十分に味わって
いたようだ。
この日収穫したコシヒカ
リは小野寺さん方で栽培し
たモチ米と交換し、学校祭
のもちつき大会に使われる
予定とか。尚、足利市で
は毛野南小の外に富田、山
前、栗鹿小でも農園を実施
している。

5. 研究の成果と今後の課題

今回の米づくり体験学習を通して、次の様な成果を得ることができた。

- (1) 田植えと稲刈りを直接体験することによって、稲の成長の様子、稲作の手順等を身をもって観察・調査することができた。
- (2) 2年生と5年生が、互いに協力して学習することにより、親しみの持てる、上・下級生の関係ができた。
- (3) 農家の方々や農業委員会の方々との交流を通して、地域社会と子ども達の間を深めることができた。
- (4) 児童自らが積極的に活動するようになり、休日や放課後等を使って、自主的に稲の成長を観察する姿が見られるようになった。

今回は、苗代や育苗などの作業を農家の方々にほとんどお任せしたが、次回は、もう少し児童が活動できる場を与え、自分達で育てたという実感を、より一層持てるようにしたい。そして、より充実した体験学習の場と時間を確保するため、地域の方々との連携を更に深め、学習内容を指導計画の中に位置づけるようにしていきたい。

評

学校における稲作体験農園設置については、背景として二つの面があります。一つは、我が国の米需給均衡化対策として、日本型食生活の定着化の促進と学校給食における米飯給食の重要性の再認識であります。もう一つの面は、学校における体験学習の重視の側面であります。つまり、勤労生産学習の推進であります。

臨教審答申をはじめ、教育課程の基準の改善、新学習指導要領の改訂等々の中で、子どもたちに自然に触れ合う機会、奉仕の機会、あるいは勤労体験の機会などをもっと増やすようにと要請され、それらが、特別活動の中に教育内容として位置づけられてきました。

毛野南小学校におきましては、こうした二つの背景を考慮して、率先して稲作体験農園を設置し、児童の体験を重視した勤労生産学習に取りくまれ、貴重な成果を上げられましたことに大し深く敬意を表します。

稲作体験学習は、額に汗して働く体験を通して、稲を育て、収穫する苦しみと喜びを子どもたちに実感として体得させ、たくましい体を育成する上で意義のあることはもちろんであります。自然への畏敬の心、感謝の心、物を大切に作る心、さらには、協働・連携の心など、“豊かな心”を育成する上で極めて意義のある教育活動であると思います。そして、これらの体験によって教科の学習をしっかり支え、ものを見る目、ものを創造する心、又は、法則的なものを見い出していく力を育てることにもなり、教科指導の論理からも大きな意義があるものと確信いたします。

以上のように、こうした体験重視の学習は、これからの学校教育改善の大きな視点であろうと思います。そういう意味で、毛野南小学校の取りくまれた稲作体験学習は、大きな意義があります。他校におきましても、各校の実態に応じて、体験重視の学習を推進されることを期待して、評といたします。